

Relationships between skeletal morphology and patterns of bilateral agenesis of third molars in Japanese orthodontic patients

魚津 美和

論文内容の要旨

第三大臼歯の先天性欠如と骨格形態の関連を調べた報告はあるが、第三大臼歯以外の歯の先天性欠如を伴わない上顎あるいは下顎両側第三大臼歯の先天性欠如と骨格形態の関係を調べた報告はない。本研究は、日本人矯正患者における上顎あるいは下顎両側第三大臼歯の先天性欠如と骨格形態の関連について検討した。資料は、上顎両側第三大臼歯が欠如し下顎両側第三大臼歯が存在している 60 名(男性 30 名, 女性 30 名; U 群), 下顎両側第三大臼歯が欠如し上顎両側第三大臼歯が存在している 60 名(男性 30 名, 女性 30 名; L 群), 上下顎両側第三大臼歯が存在する 60 名(男性 30 名, 女性 30 名; C 群)の側面頭部エックス線規格写真である。各群とも第三大臼歯以外の歯の先天性欠如がない症例を選択した。線分析, 角度分析および面分析を用いて, これら 3 群間と男女間における骨格形態を比較した。そして, 以下の結果を得た。

1. 上顎骨長径と上顎骨面積は, U 群と L 群が C 群より有意に小さかった。
2. 下顔面高は, U 群が C 群より有意に小さかった。
3. 女性は男性に比べて, 上顎骨長径, 下顎骨長, 下顎骨体長, 下顎枝高, SNB 角, 上顎骨面積, 下顎結合部面積, 下顎骨体面積および下顎枝面積が有意に小さかった。
4. 男性は女性に比べて, 下顔面高, 下顎下縁平面角および ANB 角が有意に小さかった。

以上より, 上顎あるいは下顎両側第三大臼歯の先天性欠如は上顎骨長径と面積, さらに上顎両側第三大臼歯の先天性欠如は下顔面高を有意に小さくすることが明らかとなった。

論文審査の結果の要旨

本研究は, 日本人矯正患者における両側第三大臼歯の先天性欠如パターンと骨格形態の関連について検討したものである。その結果, 上顎あるいは下顎両側第三大臼歯の先天性欠如は上顎骨長径と面積, 上顎両側第三大臼歯の先天性欠如は下顔面高を有意に小さくすることを明らかにした。これらの知見は, 矯正歯科治療の診察, 診断および成績を向上させる有益な情報であり, 歯学に寄与するところが多く, 博士(歯学)の学位に値するものと審査する。

主査 小出 馨
副査 佐藤 聡
副査 小松崎 明

最終試験の結果の要旨

魚津美和に対する最終試験は, 主査小出 馨教授, 副査佐藤 聡教授, 副査小松崎 明教授によって, 主論文に関する事項を中心として口頭試問が行われ, 優秀な成績をもって合格した。